

価格の改定を実施させていただく場合がございます。
最新価格につきましては、お問い合わせ下さい。

形式:SSPRO6

マン・マシン・インタフェース、ソフトウェア製品

SCADALINXpro HMI パッケージ

主な機能と特長

- 高品質な画面を作成
- 各社PLC 約80機種と接続可能
- リモートから監視や制御が可能
- Webブラウザ (Internet Explorer、Edge (IEモード))での運用、VBなどの開発言語に組み込み可能

形式:SSPRO6-①

価格

基本価格

- クライアント数 01 500,000円
- クライアント数 10 600,000円
- クライアント数 20 800,000円
- クライアント数 30 1,000,000円

ご注文時指定事項

- ・形式コード:SSPRO6-①
- ①は下記よりご選択下さい。
- (例:SSPRO6-01)

①クライアント数

- 01:クライアント数 01
 - 10:クライアント数 10
 - 20:クライアント数 20
 - 30:クライアント数 30
- クライアント数(同時にサーバ接続)が、30を超える場合はご相談下さい。

製品構成

- ・SCADALINXpro HMI パッケージ DVD 1枚
(取扱説明書は日本語版のみ)
- ・ライセンスキー(USB タイプ) 1個

ソフトウェア構成

SCADALINXpro Server:機器との通信処理、アラーム処理、データログ処理等を行うアプリケーション

SCADALINXpro Editor:画面作成のための編集ツール

SCADALINXpro Browser:Editorで作成した画面をランタイムとして動作させるアプリケーション。Severと通信接続して機器データやアラーム情報、履歴情報等を取得

TL2Linx:TL2シリーズと接続し、SCADALINXpro Serverにデータを提供するアプリケーション

(TL2Linxの機能を使用するには、TL2COMライブラリ Rev 4.xx(別売)が必要です)
(帳票の修正は行えません)

ソフトウェア構成の詳細については、弊社までお問い合わせ下さい。
また、最新情報は弊社ホームページをご参照下さい。

接続機器

サーバ:SCADALINXpro Serverが動作する端末

クライアント:SCADALINXpro Browser、Webブラウザ等により画面表示機能を実行する端末

対応プロトコル

- ・Modbus/TCP:当社リモート/OやDL30等と接続が可能 (LAN接続)
- ・Modbus-RTU:ネットワーク変換器(形式:GR8-EM等)を介して54U2等と接続が可能(RS-485接続)
- ・L-Bus:72LB2、R3RTU-EM2との接続が可能
- ・PLC:三菱電機Qシリーズ、オムロンNJシリーズ等、各社PLC(約80機種)との接続が可能
(対応機種については、弊社までお問い合わせ下さい)

対応インタフェース:OPC(DA1.0/2.0)、DDE、IPLink等
上記3つは、サーバ機能の他、クライアントとしての接続も可能

TL2Linx対応機器:TL2W、TL2R2、TL2W2

タグ

タグの機能:

下位デバイスと信号値を授受し、グラフィック画面等の上位系機能群につながります。具体的には、機器の現在値を保持するタグ、トレンドデータを保持するタグ、アラーム発生のトリガとなるタグなどとして設けます。

(注)入出力設定では、ユニット(PLC等の機器単位)を設け、ユニットごとに複数のフォルダ(データ収集の単位)を設定し、フォルダごとにタグを設定して管理します。
タグ数に制限を設けていません。

タグのデータ形:

数値データとして整数/バイナリ(符号有無)、整数/BCD(符号有無)、浮動小数形(単精度、倍精度)でバイト/ワード/ダブルワード長、およびビットデータ、文字列データ(アスキー)

タグの文字:

半角で先頭は英字、以降は英数字またはアンダスコア(_)文字数に制限を設けていません。

主な機能

ロギング機能:

登録されたタグに、SCADALINXpro Serverのロガー機能を設定して、時系列のログデータとしてCSVファイルやデータベース(ODBC)にロギング

ロギングのタイミングは定周期(任意時分秒、1秒以下については数10ms程度まで)、定刻、タグイベントが可能

注)ロガー機能にはスクリプトを持たせることができ、タグ値の演算などが可能です。

タグ数に制限を設けていません。

トレンドデータ機能:

SCADALINXpro Serverにロガー機能を設定し、別途設定したタグを対応づけて収集

収集周期はロガー機能にて設定

注)タグ数に制限を設けていません。

レポートデータ機能:

SCADALINXpro Serverにロガー機能を設定して、別途設定したタグを対応づけ、さらにServerに日報・月報・年報機能を設定し、ロガー機能のタグと結びつけて収集

注)タグ数に制限を設けていません。

アラームデータ機能:

アラームマスターに各アラーム定義(発生条件、メッセージなど)を記述し、SCADALINXpro Serverにアラームサーバ機能を設定し、実行させて収集

注)アラーム定義数に制限を設けていません。

デマンド機能:

SCADALINXpro Serverのデマンドアクションにて収集されたデータを基に、デマンド電力量を算出、推移状況をグラフ表示

EMS機能:

SCADALINXpro Serverのロガー機能にて収集されたデータを基に、使用量、エネルギー換算、原油換算、CO₂換算を行いグラフ表示

表示仕様

画面の作成:

SCADALINXpro Editorのフォーム上に、画面を構成する要素である各種パーツ(コントロール)を貼付けることにより作成

注)スクリプトとして、画面上の操作やタグ値の更新(イベント)に基づく処理(関数の利用可能)を記述できます。

画面の表示:

SCADALINXpro Editorで作成した画面は、SCADALINXpro Browser等にて表示

画面の種類:

画面を構成する基本パーツ(約50種類の標準コントロール)が

用意されており、これらのコントロールを組合せ、またライブラリ(700種類以上)を利用して種々の画面(監視、制御等)を自由に作成

代表的な画面は下記の通り

■監視・制御:装置の現在値表示、ランプ表示、メータ表示等の監視や、ボタン、スイッチ、スライダ等で装置の制御を行う画面

■アラーム一覧:現在発生中のアラーム一覧であるアラームサマリ、アラームの発生履歴一覧であるアラーム履歴、発生履歴を動的に一覧表示するリアルタイムアラーム

■トレンドグラフ:装置の状態を表示するリアルタイムトレンドグラフ、過去の保存データを表示するヒストリカルトレンドグラフ

■レポート:レポートデータを日報、月報、年報として表示

必要システム(お客様ご用意)

OS:

Windows 7 32bit

Windows 7 64bit

Windows Server 2008 *1,*2

Windows Server 2008 R2 *1,*2

Windows 8 32bit *2

Windows 8 64bit *2

Windows 8.1 32bit *2

Windows 8.1 64bit *2

Windows 10 32bit

Windows 10 64bit

Windows 10 IoT Enterprise *1,*2

Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2016 *1

Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2019 *1

Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2021 *1

Windows 11 *1,*2,*3

Windows 11 IoT Enterprise *1,*2

Windows Server 2012 *1,*2

Windows Server 2012 R2 *1,*2

Windows Server 2016 *1,*2

Windows Server 2019 *1,*2

Windows Server IoT 2019 *1,*2

Windows Server 2022 *1,*2

Windows Server IoT 2022 *1,*2

RAM:2GB以上

HDD:1GB以上の空き容量

*1、FL-net通信ドライバは対応しません。

*2、TL2Linxは対応しません。

*3、HomeはOPCを使用できません。

注1)取扱説明書は日本語版のみ。

注2)Windows Embedded OS(Windows 10 IoT Mobile Enterprise、Windows 10 IoT Core/Core Pro、Windows Embedded 8、Windows Embedded 7等)はサポートしていません。

注3)TL2Linxをご使用になる場合は、64bitのパソコンであっても、SCADALINXpro 32bit版をインストールして下さい。

システムの運用

スタンドアローン:

1台のパソコンに、SCADALINXpro ServerとSCADALINXpro Browserをインストールして1台のパソコンのみで運用

複数パソコン:

1台のパソコンに、SCADALINXpro Server(あわせてSCADALINXpro Browser)をインストールし、他のパソコンにSCADALINXpro Browserをインストールして複数のパソコンで運用

リモートクライアント:

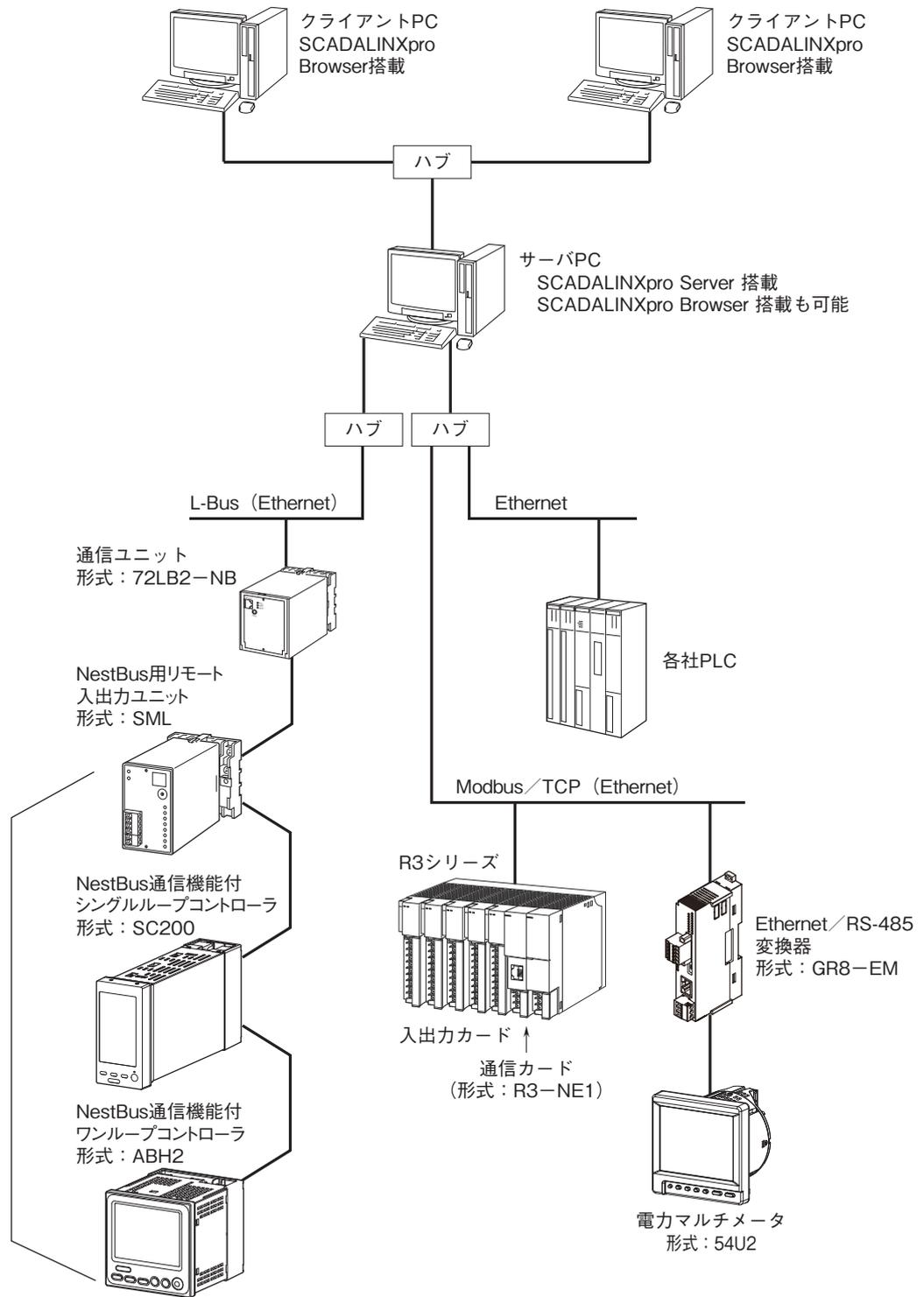
1台のパソコンに、SCADALINXpro Server(あわせてSCADALINXpro Browser)をインストールし、インターネットやイントラネットを介してリモートのパソコン上にSCADALINXpro Browserをインストールして運用

注)クライアントパソコン上で動作するアプリケーションとしては、SCADALINXpro Browserを利用する通常の運用の他、Webブラウザ(Internet Explorer、Edge(IEモード))を利用してリモートからURLで運用することもできます。

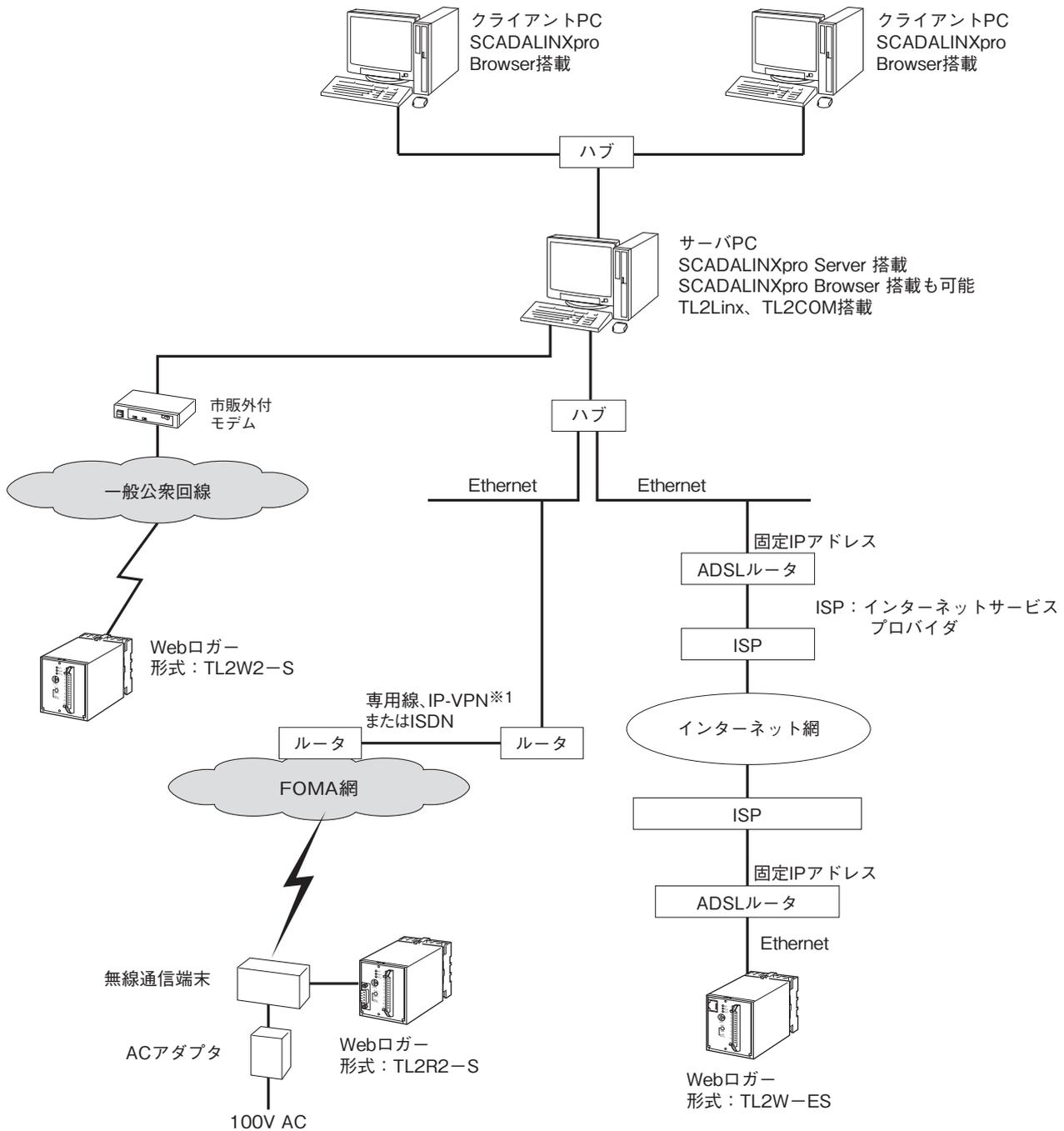
また、監視・制御画面等をVisual BasicやC++等の開発言語に組込んで運用することもできます。

システム構成例

■Modbus/TCP、L-Bus等の接続



■TL2シリーズとの接続



※1、FOMA網：専用線・フレームリレー（64k～6M）、セルリレー・ATM専用線（1M～10M）、広域イーサネット（1M～100M）またはISDN（64k、128k）
 （契約時、指定したIPアドレスのパソコンからのみWeb画面を見ることができます）



- 記載内容はお断りなしに変更することがありますのでご了承ください。
- ご注文・ご使用に際しては、弊社ホームページの「ご注文に際して」を必ずご確認ください。
- 本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
 安全保障貿易管理については、弊社ホームページより「輸出（該非判定）」をご覧ください。

お問い合わせ先 ホットライン：0120-18-6321